

平成26年度 教育事業「高校生のための生徒会リーダーキャンプ」報告書

8月5日（火）～8月6日（水）

- 趣 旨 高校の生徒会活動の活性化を図るとともに、高校生の社会性・自主性を育み、リーダーシップ能力を向上させることを目的とする。
- 主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立淡路青少年交流の家
- 後 援 兵庫県教育委員会、徳島県教育委員会
- 期 日 平成26年8月5日（火）～8月6日（水）（1泊2日）
（台風接近に伴う警報発令のため、1泊2日に短縮して実施）
- 会 場 国立淡路青少年交流の家（兵庫県南あわじ市）
- 参加者 高校生生徒会役員24名（男子9名、女子15名）及び
生徒会担当教員8名（男子6名、女子2名）
- 講 師 青木 将幸 氏（青木将幸ファシリテーター事務所 代表）
高田 研 氏（公立大学法人都留文科大学 教授）
蓬田 高正（国立淡路青少年交流の家 事業推進係長兼企画指導専門職）

■プログラム内容 [生徒対象]

【8月5日（火）】

10:00～ 受付開始

10:30～10:45

開会式

① 所長挨拶（大本晋也所長）

「合い言葉は[SUMMER!] 今回のリーダーキャンプでのお約束」

S u p p o r t→お互いに支援する。

U s e f u l→有益なヒントがあるかもしれない。

M o r e p e o p l e→たくさんの人達と交流する。

M o u t h→思ったことは口にする。発言する。

E n j o y→楽しむ!

R e f r e s h→リフレッシュする。元気になる。

② 講師・ボランティアスタッフ・交流の家職員の紹介

10:45～11:45

ワーク1「学校及び生徒会活動の紹介」（青木将幸講師）

各校3枚程度の写真を用いて、学校及び生徒会活動の紹介を1校5分程度で行う。



合い言葉は[SUMMER!]

各校の主な内容（発表順）

① 兵庫県立阪神昆陽高校

創立3年目の新しい高校、特別支援学校を併設
地域の清掃活動を実施、校内行事運営（体育祭、生活文化発表会）

② 兵庫県立津名高校

校内行事運営（体育祭、文化祭）、全校生の手形によるモニュメント作成

③ 兵庫県立淡路高校

進路実現に向けた総合学科

“ささやか真心プレゼント”（地域交流）、全島一斉清掃、校内行事運営（体育祭、文化祭）

④ 兵庫県立尼崎高校

教員に必要な資質を養成する『教育と絆コース』というクラスが各学年1クラスを設置
地域でのボランティア活動（暴走族追放キャンペーン）への参加

⑤ 伊丹市立伊丹高校

地域ボランティア活動への参加、校内行事運営（体育祭、文化祭）
地域活動（古本市→売上を東日本大震災に募金）

⑥ 兵庫県立西宮香風高校

生徒会新聞を作成、体育祭スローガン看板作成
校内行事運営（体育祭、生活文化発表会）



11:50～13:00 昼食・休憩

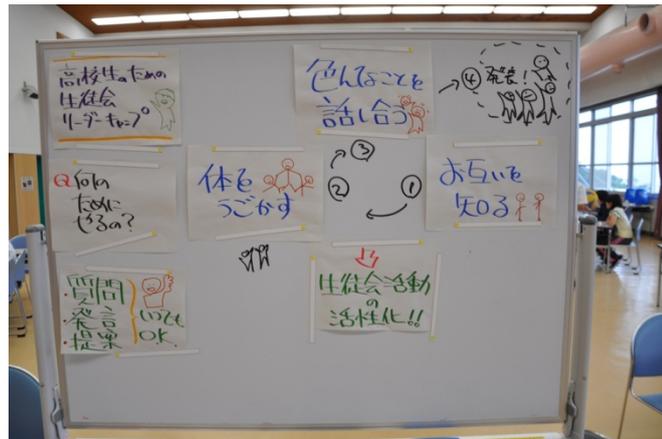
13:00~16:55

ワーク2「アイスブレイク」(青木将幸講師)

① ねらいの確認

「このセミナーは何のためにやるのか？」

- 1、お互いを知る 2、体を動かす 3、色んなことを話し合う という活動を通じて、生徒会活動の活性化を図る。



② お互いを知るゲーム

- ・円形にイスを並べて座り、一人が自分の名前を言い、お題を出す。イス取りゲームの要領でお題に該当する者のみ、他のイスに座る。残った人が自分の名前を言い、次のお題を出す。
- ・A4用紙に各自が好きな食べ物を書き、一人ずつ発表する。
- ・ランダムに4人組を作り、それぞれのグループで自己紹介、出身地、好きな食べ物について話す。

③ みんなに聞いてみたいこと

- ・引き続き同じグループで「みんなに聞いてみたいこと」を一つ挙げる。
- ・みんなに聞いてみたいこと1「この2日間、呼ばれたいニックネームは？」
→ A4用紙に自分の呼んでほしいニックネームを書く。イスを円形に戻し、一人ずつ自己紹介をする。
- ・円形の状態で立ち上がって、あだ名を呼び、相手にボールを投げる。
→ コミュニケーションワークの一つである。コミュニケーションはキャッチボールと同じで、相手が受け取りやすい、聞きやすい情報を発することが重要である。
- ・みんなに聞いてみたいこと2「あなたの趣味は？」
紙に書いて一人ずつ発表、関連する質問などにその場でコメントする。
→ 話題を広げる、それぞれ個人の印象付けを行う、共通の趣味を発見し

親近感を抱いてもらう。

- ・みんなに聞いてみたいこと3「将来の夢」
→紙に書いて一人ずつ発表する。その後、ランダムに5人グループを作りそれぞれ将来の夢を叶えるために“どうすればなれるか？”考える。
1人5分ずつ自分の夢について、それぞれのグループで話す。
- ・みんなに聞いてみたいこと4「各校の校歌が知りたい！」
→順番に校歌を斉唱する。
校歌を聞いた感想、印象に残ったことを話す。

④ グループディスカッション

生徒会活動をしてきて良かったこと、困っていることを各グループで模造紙にまとめる。

> 良かったこと、得たこと

- ・仲間意識・協力の意識が生まれる
- ・地域の人と関わる
- ・自分の学校を知ることができる
- ・責任感を持つ、やりがいを感じられる
- ・困っている人のサポートなどに立ち回る
臨機応変さを得た
- ・色々な活動に参加できる
- ・行事の準備から参加し、楽しめる
- ・人間関係が広まる（先輩後輩、生徒教師）
- ・人前での発表になれる、自分の意見を人前で言える



> 困っていること、気になっていること、他校に聞いてみたいこと

- ・行事の時にクラスに関われない
- ・役員が全員そろわない
- ・人に頼ってしまう
- ・おとなしい子が話に参加してくれない
- ・多数決で決まりがち
- ・年間行事以外の他校の活動を知りたい
- ・学校行事に興味のない人にどう興味を持たせるか
- ・部活などとの両立が難しい

17:00～19:00 タベの集い、夕食、休憩

19:00~21:00

ワーク3 「課題解決ゲーム」(青木将幸講師、蓬田高正講師)

一人では解決できないような課題に対して、協力しあいながら課題を解決していく。

- ・「UFO」(輪になって人差し指を出し、その人差し指の上にプラスチック製の輪っかを乗せ、全員の人差し指が離れずに、輪っかを地面に置く。)



- ・「交通渋滞」(1列に並べた四角いマット(30cm角)に全員が乗り、真ん中に誰も乗っていないマットを置き、内側に向き合う。一定のルールの下、向き合ったメンバーが入れ替わる。)



- ・2つの課題解決ゲームを終えたところで、自分はグループにどれだけ貢献できたか振り返り、10点満点で自己採点を行う。一人ひとり点数とその点数を付けた理由を発表する。

→「次のゲームに活かせるよう意識することが大切！」



- ・「キーパンチ」(直径約1.5mの円の中に置かれた1～30まで書かれた数字を、円の中に入らずに1～30の順で踏み、その時間を競う。)



- ・「ブラインドスクエア」(全員目隠しをし、輪になったロープを使い、正方形を描く。)



- ・再び、自分はグループにどれだけ貢献できたか振り返り、10点満点で自己採点を行う。一人ひとりが点数とその点数を付けた理由を発表する。

21:00～22:30 入浴・就寝準備

22:30 就寝

【8月6日(水)】

6:30 起床

7:00 朝の集い

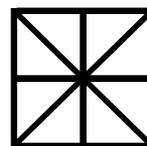
7:20～9:00 朝食・身辺整理・清掃

9:00～11:00

ワーク4「遊びから学ぶコミュニケーション」(青木将幸講師)

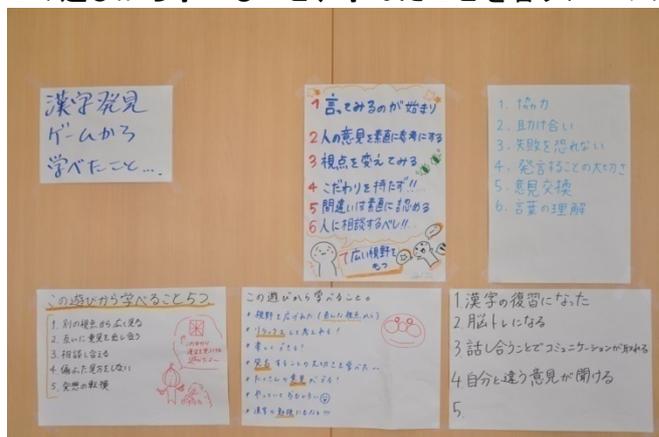
- ① 昨日をふりかえって全員から一言
- ② 漢字探しゲーム

ランダムに3、4人組を作り、右図からいくつの漢字が隠



れているかを探す。まず個人で考える、その次にグループで考える。隠れている漢字の数を競う。

この遊びから学べること、学んだことを各グループが5つ挙げた。



(主な意見)

- ・人と相談すること、人の意見を聞くことの大切さ。
- ・別の視点から見ることができる→個人で偏った見方をしない。
- ・人と共有し、指摘された間違いを認めることも必要。
- ・まず個人の意見を考えて書き、それを言うことから始まる。
- ・協力、助け合いが必要である。
- ・少人数で自由に話すことにより、リラックスして考えられる。

11:00~11:50

ワーク5「課題解決ディスカッション」(青木将幸講師)

- ・話し合いたいテーマを自由に提案する。
- ・ランダムに3グループに分かれ、それぞれで課題について話し合う。

(挙げられた主な課題)

- ・どんなボランティア活動をしているの?
- ・生徒会活動で、生徒が一番積極的に参加してくれる行事は?
- ・生徒会室にあれば便利なものは?
- ・体育祭、文化祭で一番盛り上がるプログラムは?
- ・話し合いで話がそれたらどうすればよい?
- ・なぜ生徒会に入ったの?
- ・これからの生徒会の目標は?
- ・行事で生徒会から出し物をする時、何をしたら生徒が集まる?
- ・先輩後輩の仲は良い?

・客観的に見た自分と生徒会の評価は？

11:50 昼食、休憩

13:00 ワーク6「2日間を振り返って」(青木将幸講師)

この2日間を過ごしてきて・・・

(1) 私個人として持ち帰りたいこと

(2) うちの生徒会として持ち帰りたいこと、これからやりたくなったこと

以上2つを自分で考えた後、主に(2)を中心として各高校で発表内容を考える。

各校の内容(発表順)

① 兵庫県立阪神昆陽高校

- ・地域と関わりを持てる生徒会に！
- ・会議のやり方を改善する(進め方の工夫)
- ・生徒会内で話し合う機会を持つ
- ・ボランティア活動にも取り組む



② 兵庫県立津名高校

- ・全員の考えを聞く工夫(考える時間を与える)
個人→少人数→全体での共有
- ・楽しんで活動する



③ 兵庫県立淡路高校

- ・他校からのアドバイスを活かして、行事で新しいプログラムを取り入れる
- ・アドリブ(発言力の向上)
- ・積極的な行動力



④ 兵庫県立尼崎高校

- ・必要なことは口に出す(コミュニケーション)
- ・いろいろな人の意見を聞き、良い所を吸収する
- ・大勢の人の前で意見を言えない人のためにアンケートを取る
(その場で即意見を言うのは難しいので考える時間が必要である)



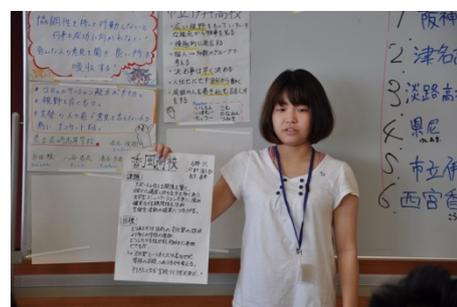
⑤ 伊丹市立伊丹高校

- ・積極的に発言する
- ・決め事は早く決める
- ・人任せにばかりするのではなく、自分から行動する。
自分の意見を出した上で他人と共有し、更に新たなものを作る
- ・みんなを巻き込む 聞いている方も疲れない話し方、会議をしていく。



⑥ 兵庫県立西宮香風高校

- ・一人が背負うのではなく、協力、信頼できる関係を築き、一緒にやる
- ・楽しい学校作り→行事により多くの生徒が参加したくなるように！



15:15 閉会式

15:30 解散

■プログラム内容 [教員対象]

【8月5日(火)】

10:00~ 受付開始

10:30~10:45 開会式 (生徒対象プログラムに同じ)

10:45~11:45 ワーク1「学校及び生徒会活動の紹介」
(生徒対象プログラムに同じ)

11:50~13:00 昼食・休憩

13:00~14:45

ワーク2「アイスブレイク」(高田研講師)

- ① 自己紹介 (トーキングリーフ・・・葉っぱを持った人だけ自己紹介・発言する。) したあと、その内容について感想を話し合う。
- ② 講義「アイスブレイク・参加型ワークショップとは？」
 - ・「アイスブレイク」とは緊張をほぐして、その場にふさわしい雰囲気を作ること。ゲームをすることではない。

- ・初対面の人たちが集まることによる懸念（心配事）を取り除くとともに、これから一緒に参加型ワークショップを進めるにあたっての規範作り・関係作りをする。
 - ・参加型ワークショップとは、参加者が自ら参加・体験して学びあう学習形態であり、学ぶ意味やその過程（プロセス）に着目するものである。
 - ・規範作り・関係作りができると、自分を開くこと（自己開示）と相手のことを聴くこと（傾聴）ができ、参加型ワークショップがスムーズに進められる。
- ③ 生徒たちのワークを見てみよう！
- ・生徒たちのアイスブレイクの様子を見学するが、生徒たちには絶対に声をかけない。

14：45～16：15

ワーク3「今どきの高校生！！“問題点から課題を探る”」（高田研講師）

- ① 現代の高校生の問題点を出し合う（トーキングリーフ・・・葉っぱを持った人だけ発言する。）
- （挙げられた主な問題）
- ・携帯、スマートフォン、SNSの問題
 - ・コミュニケーション能力の低下
 - ・自分で考えて行動する子が少ない
 - ・自転車に乗りながらイヤホンなどの交通マナーの問題
 - ・基本的な生活習慣が身につけていない
- ② キーワード探し（課題探し）
- ・挙げられた問題から、中核的なものにシール（5つ）を貼る。
 - ・シールが多く貼られた問題について、2グループに分かれ、その中に見られる現象を分析し、解決すべき課題を探る。
- （挙げられた課題）
- ・SNSの使い方
 - ・自分で考えて行動する子が少ない

16：15～16：55

ワーク4「参加型ワークショップの実際」（高田研講師）

参加型ワークショップの技術についての講義

- ・ファシリテーショングラフィック（会議を文字と絵を使い、可視化する技術。付箋などの紙にキーワードやイラストを書き、貼りながら記録する。）

17:00～19:00 タベの集い、夕食、休憩

19:00～21:00

ワーク5「体験学習法の実際①」(高田研講師)

体験学習法について、生徒たちの課題解決ゲームを見学し、実際に「UFO」という課題解決ゲームにトライしてみる。

- ・「体験学習法」とは、「体験する(DO)」→「指摘する(LOOK)」→「分析する(THINK)」→「概念化する(GROW)」を循環過程として構造化される教育方法である。
- ・この教育手法を学校運営や学校改革に取り入れている高校もある。

21:00～22:30 入浴・就寝準備

22:30 就寝

【8月6日(水)】

6:30 起床

7:00 朝の集い

7:20～9:00 朝食・身辺整理・清掃

9:00～10:00

ワーク6「体験学習法の実際②」(高田研講師)

前夜のワークの続きで、体験学習法を学校運営や学校改革に取り入れた高校を紹介する。

- ・先生・生徒の関係が教える・教えられる側から変わると生徒自ら動き出す。
- ・先生が良きファシリテーター(学習・気づきの促進者)となることが重要である。

10:10～11:50

ワーク7「グループ発表に向けた準備」(高田研講師)

- ・前日の高校生の問題点について、グループに分かれ、それを課題としてまとめる。
- ・生徒指導部(生徒会活動)としてできるプロジェクトを考える。
- ・最終的にA4用紙10枚程度のプレゼン資料としてまとめる。

11:50 昼食、休憩

13:00 ワーク8「2日間を振り返って」(青木将幸講師)

- ・生徒たちの発表を聴くとともに、午前中に準備したプレゼン資料をもとに発

表を行う。

15 : 15 閉会式

15 : 30 解散

■担当者の所見

今回は生徒会役員及び生徒会担当教員を対象に、生徒会活性化のためにアクションプランを作成するワークを実施した。参加した生徒は意欲的に取り組み、2日目に各校ごとに「生徒会として持ち帰りたいこと、これからやりたくなかったこと」をまとめ、お互い発表しあった。参加した高校生同士の交流も図られ、今後再び集まってアクションプランのフォローアップの機会提供の希望が数多く寄せられた。

これも含めて、今後以下のような事柄を今後検討していく必要があるものと思われる。

① アクションプランの進捗状況をお互いに発表できる機会の提供

今回はアクションプランとして、各校ごとに「生徒会として持ち帰りたいこと、これからやりたくなかったこと」をまとめて、発表してもらった。アクションプランのフォローアップの機会提供の希望が数多く寄せられたため、プランの進捗状況を発表するなど、フォローアップの事業を検討する必要がある。

② より多くの高校生の参加

今回の参加校は、兵庫県内の阪神地区及び淡路地区の学校からの参加のみであった。高校生同士の交流という観点からも、地域の高校生徒会のニーズを把握し、兵庫県だけではなく、近隣府県（大阪府や徳島県など）や全国から参加者が集えるような取組が必要である。

③ 気象警報発令時の対応

今回は台風接近に伴う気象警報発令のため、期間を1泊2日に短縮して実施したが、学校への連絡が遅くなってしまった。気象警報発令時の対応について、確認する必要がある。